公共施設再編は地域の核で ある学校を軸に考えないか

あやせ未来会議　畑井　陽子

●まちづくりの方向性は～公共施設再編について～

Q 厳しい財政状況の中、公共施設再編計画第２期アクションプラン策定に当たり、どのような課題があるのか。

A 建設費の高騰や防衛補助など、特定財源の見通しが不透明なことなどによる財源の確保が課題であり、財政負担の縮減や平準化に留意し、計画を策定する必要がある。

●地産地消を進める学校給食や農業施策について～有機給食を進めるには～

Q 地産地消の学校給食を進めるための考えは。

A 生産者とＪＡさがみ間の仕組みにより、市内産農畜産物の販路は限定的となっているが、地産地消と生産者の販路確保、地域農業の振興につながるよう支援していく。学校給食の食材は、栄養士が一食当たりの単価を基準に選定しているが、物価高騰が地産地消を妨げる要因の一つとなっており、価格面や供給面での課題解決が必要である。

Q 有機給食の実現に向けて、課題の洗い出しや研究を進めていかないか。

A 有機農産物を使った学校給食の提供には、価格、規格や品質のほか、必要な量の安定確保などの課題があり、市内農業の現状から調達困難であると認識しているが、有機給食の意義や実施方法などを調査研究していく。

感染症の症状を発信する際の情報源の認識を問う

成田　龍二

●市民への感染症の症状の伝達と行政の限界について

Q 米政府は、新型コロナウイルスが研究所由来の人工ウイルスであるとの見解を公表している。この場合、ビジネスで活用されるリスクへの対応が必要だが、市は、国や県と異なる見解は周知できないとした。一方、ニンバスの症状を「カミソリで喉を切られたような激痛」とした一部報道から引用した表現はなぜ使用できるのか。

A 衛生研究機関や医療機関が、特に目立つ喉の痛みの症状を分かりやすく伝えるため用いた表現で、医師会にも確認が取れたため使用した。

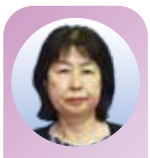
●部活動の教育的意義について

Q 熊本市では、教職員や地域人材の中から希望者が指導することを前提に、部活動を継続させるとしている。指導者数に合わせ部活動を配置していくほか、人材バンクを通して集まった指導者へ対価を支払うという特徴があり、指導者、保護者や生徒が活動内容などを協議する場を設けて、子どもたちと共に新しい部活動を作り上げることで、学校部活動を主軸として維持する考えだが、市の方針は。

A 持続可能な活動環境の確保を目指し、地域と学校が協働し生徒の活動機会を支える体制構築を進め、部活動の地域展開に取り組んでいく。

１月28日、「県央八市議会議員合同研修会」に参加しました
＜綾瀬市オーエンス文化会館にて＞

全世代の健康寿命延伸に向けて健診や予防策の充実を



公明党　内山　恵子

●健康寿命の延伸対策について

Q 特定健診受診年齢より若い世代への施策と課題は。

A 37歳を除く35歳から39歳までの被保険者を対象に、市独自に健康診査を実施し、生活習慣病のリスクがある方には、保健師や管理栄養士による保健指導を行っている。受診率の低さが課題であるため、保険年金課窓口に健康測定機器を常設し、自身の健康への気づきを促すほか、令和８年度からは、対象者を35歳から39歳までの全ての被保険者へ拡大し、生活習慣病予防の取り組みを進めていく。

Q 子宮頸がんワクチンのキャッチアップと定期接種の接種者数は。

A 令和６年度のキャッチアップ接種者総数は、５年度と比較し１，５１０人増の１，９２６人で、定期接種の接種者総数は、３３５人増の６４１人である。

Q 市民プール整備の進捗状況は。また、健康施設という視点で、中心市街地に市民プールを作らないか。

A 公共施設再編計画を踏まえ、総合的に整理する必要があるほか、建設費や維持管理費など多くの事業費を要するため、規模と財源を熟慮する必要があることから、慎重に進めていく。また、具体的な建設候補地は未定であり、慎重に判断していく。

市公式マスコットキャラクター
「あやぴぃ」

市民と課題や対策を共有し交通事故ゼロ社会の実現を

志政あやせ　武藤　俊宏

●市民とともに交通事故の減少に向けた安全対策と状況について

Q 自転車乗車中のヘルメット非着用や、携帯電話の使用による死亡・重傷事故の傾向と年齢構成は。

A 公益財団法人交通事故総合分析センターでは、ヘルメット着用時の致死率は非着用時の４分の１になると分析している。また、警察庁の報告では、令和６年に全国で発生した自転車乗車中の携帯電話使用による死亡・重傷事故件数は28件で、10年前と比較し４倍以上に増加している。直近５年間の合計は１１４件で、全体の75％が20代以下の若年層となっている。

Q 区画線やグリーンベルトなどの道路標示が消えて薄くなっている箇所の補修要望への対応は。

A 学校要望やパトロールなどで把握した箇所に優先順位をつけて、年度予算の中で可能な限り補修工事を実施している。令和７年度は、学校からの要望が36カ所あり、８年度から２カ年で補修が完了するよう進めていく。

Q 通学路でもある深谷神社前交差点への歩車分離式信号設置要望に対する進捗は。

A 大和警察署から県公安委員会へ上申され、現在、歩車分離式信号機の設置に向けて、継続して検討していると回答を得ている。

市の木「やまもみじ」

議会用語の三二知識

「表　決」

表決とは、議会の意思決定に議員が参加するための手段で、賛成、反対の意思表示をすることをいいます。

表決の方法には、大別すると議長が議題に関して賛成する者を起立させ、その多少を認定して行う「起立表決」と起立者の多少を認定しがたい場合に行う「投票による表決」、議長が異議の有無を諮る「簡易表決」の３つがあります。本市議会においては、通常「起立表決」と「簡易表決」が多く用いられています。

このように、議長が表決をとることを「採決」といい、表決の結果得られた議会の意思決定（例えば可決、否決、同意など）を「議決」といいます。したがって、「表決」は、議会の審議過程における最終手続になります。